

5-3 災害対策・BCP検討WG

1. 主な活動の記録

(1) 災害対策・BCP検討WGの開催

委員会開催回数：3回

(令和7年6月24日、令和7年12月2日、
令和8年3月19日)

(2) 災害時対応演習の実施

令和7年9月1日に協会本部並びに全支部が参加し、災害時対応演習を行った。演習は、北陸支部管内における大規模地震の発生を想定し、災害対策本部、災害対策現地本部及び各支部に設置する災害対策支部間の連絡・伝達体制を確認した。

なお、本演習は前年度に引き続き、本部と各支部をWeb会議システムで接続して実施した。

a) 演習の主要目的

本演習は、以下に示す連絡・伝達網及びその機能が適切に機能するかを確認することを主目的とした。

- ・災害対策本部、災害対策現地本部及び各災害対策支部間の連絡・伝達体制の機能確認
- ・各支部と会員各社との連絡網の機能確認
- ・会員各社における同時並行的な演習実施と、成果の検証
- ・本部、現地本部、リエゾン及び9支部におけるWeb会議システムを活用した連絡確認

b) 災害時対応演習実施状況

平成11年度より継続実施している防災演習の想定災害発生地域の近年の実施地域は表1のとおりである。

表1 想定災害発生支部

年 度	想定災害発生支部
令和4年	九州支部
令和5年	北海道支部
令和6年	中国支部
令和7年	北陸支部

令和7年度の災害時対応演習では、様式を一新するとともに、演習の内容を見直し、災害発

生時における情報整理や対応の流れについて、より現実に即した状況を想定した演習を行った。

また、今回初めて北陸地方整備局統括防災官が参加し、被災施設の復旧設計を要請するなど、災害発生時の連携方法や役割分担について理解を深めた。

c) 災害時対応演習の課題

災害時対応演習終了後の意見交換では、各支部から連絡ツールや連絡体制に関する課題が指摘された。具体的には、支部ごとに連絡手段の運用が異なっている点や、インターネットが利用できない場合の代替手段が十分に整理されていない点が課題として挙げられた。また、災害時に使用する各種様式について、会員への周知が不十分であることも課題とされた。

(3) TEC-FORCE パートナー用ビブスの導入

国土交通省において、「TEC-FORCEの増強と多様な主体との連携強化」が打ち出されたことを受け、TEC-FORCEのパートナーとして活動する際のビブスの導入について、国土交通省防災課より提案があったことを踏まえ、ビブスの導入案や背面の協会名表記の検討を行った。

(4) 各支部における災害応急対応業務に係る協定の見直し状況等について

各支部において、災害発生時における円滑な対応を目的として、災害対応業務に係る協定の見直し及び締結の内容を共有した。

(5) モニタリング計画等の策定

地位向上検討委員会の検討課題の一つである「『発注関係事務の運用に関する指針（平成7年2月改正）』の確実な履行」に関し、災害対応の項目として、運用指針のモニタリング計画、及び協会としての行動計画を策定した。

2. 次年度の活動について

令和8年度も同様の災害時対応演習を実施する予定である。

(災害対策・BCP検討WG WG長 河村 成人)